

# 令和7年度 春期

## 午前 I 共通問題(SC, NW, ST, SA, SM)試験分析と講評

### ■午前 I 試験(高度試験共通)講評

共通知識として幅広い出題範囲の全分野から 30 問が出題される試験です。今回の分野別出題数はテクノロジー分野が 17 問、マネジメント分野が 5 問、ストラテジ分野が 8 問でこれまでと同じでした。出題された問題は、従来どおり全て同時期に実施された応用情報技術者試験(以下、AP 試験)の午前問題 80 問から選択されています。重点分野のセキュリティからの出題が 4 問と最も多く、今回、ユーザーインタフェースと技術戦略マネジメント分野からの出題はありませんでした。

新しい内容の新傾向といえる問題は次の 8 問(前回 3 問)で、かなり増えていますが、選択元の AP 試験で増えていることによるものといえます。

- 問 2 機械学習の過程で過学習と疑われたときの解消方法
- 問 5 稼働率, MTBF, MTTR で成り立つ関係式
- 問 7 間欠動作の平均電流を  $1\mu A$  以下にするための待機時間
- 問 10 同じ値のコードをもつ表の行を自動的に削除する SQL 文
- 問 12 CRYPTREC 暗号リストの説明 (ST 既出問題, AP では初)
- 問 23 DX 認定制度における認定基準に含まれている事項
- 問 27 エッジ AI においてエッジデバイスで行われる推論処理
- 問 30 生成 AI を利用した画像生成と利用の著作権侵害について

これまで繰り返し出題されている定番といえる問題は 14 問程度で、前回の 16 問から少し減っています。なお、やや難しいと考えた問題は 6 問(問 5, 7, 12, 18, 24, 25)で、前回の 2 問から増えています。

問題の出題形式は、文章の正誤問題が 14 問(前回 18 問)、用語問題が 5 問(前回 5 問)、計算問題が 4 問(前回 4 問)、考察問題が 7 問(前回 3 問)で、考察問題が増え、文章問題が減っています。これらのことから、全体として少し難しいと感じた受験者が多かったと思われます。

(今回の分野別出題内容)  は新傾向問題,  は既出の定番問題

- ・テクノロジー分野……近似値,  機械学習の過学習,  スタック,  CPU 処理時間,  稼働率の関係,  LRU 方式,  待機時間,  SVG 画像,  正規形の変換,  SQL (CASCADE),  PoE,  CRYPTREC 暗号リスト,  SBOM,  OS コマンドインジェクション,  プロトコルの関係,  デザインレビュー,  スプリントレビュー

- ・マネジメント分野……EVM によるプロジェクト評価,  クラッシング,  サービス停止時間,  監査のウォークスルー法,  監査手続
- ・ストラテジ分野…… DX 認定制度,  クラウドを実現するプロビジョニング,  契約形態,  PPM,  エッジ AI の推論処理,  AI を用いたマシンビジョン,  変動費の計算,  生成 AI 利用の著作権侵害

分野別の出題数は次のような結果で、従来と同じでした。

分野	大分類	分野別	R6年春	R6年秋	R7年春
テクノロジー系	基礎理論	17	3	3	3
	コンピュータシステム		4	5	4
	技術要素		8	8	8
	開発技術		2	1	2
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	5	2	2	2
	サービスマネジメント		3	3	3
ストラテジ系	システム戦略	8	3	3	3
	経営戦略		3	3	3
	企業と法務		2	2	2
合計		30	30	30	30

これまで、出題される問題の約 7 割は、過去の基本情報技術者試験や AP 試験で出題された基本的な内容でしたが、今回は 5 割程度に減りました。高度試験で専門分野の力を発揮するのは午前 II の専門知識の試験からになります。午前 I 試験から受験する人は、過去の応用情報技術者試験の午前問題を解き、余裕をもって 7 割以上正解できるように、理解度を上げてください。

IPA の試験統計情報を分析すると、高度試験を午前 I から受けた人のうち、60 点以上取れた人は 5 割から 6 割台で推移していて、半数近くの人が次の午前 II 以降の採点に進んでいない状況です。高度共通の午前 I 試験では難しい内容も出題されますが、苦手な分野の学習は基本的な問題が多い基本情報技術者試験の内容から始め、基礎知識を確実に理解するようにしてください。

また、出題範囲が広いため、全体をまんべんなく学習するのにかなり時間がかかります。そのため、試験対策としては、これまで出題された出題内容のポイント事項を重点的に解説したアイテック刊行の「高度午前 I ・応用情報 午前試験対策書」で効率よく学習することをお勧めします。

以上

## 令和 7 年度春期

### ネットワークスペシャリスト試験分析と講評

#### ■試験全体講評

令和 7 年度春期のネットワークスペシャリスト試験（以下、NW 試験という）の応募者数は 17,297 名で、令和 6 年度春期の応募者数（16,085 名）に比べて 7.5%増加しました。試験の実施時期が半年遅れになった令和 3 年度に受験者数が大幅に減少しましたが、それ以降の受験者数は回復傾向です。

NW 試験は、情報処理技術者の高度試験の中で情報処理安全確保支援士に次いで応募者数が多い人気の試験です。それは、インターネットを中心としたネットワーク社会では、ネットワークと情報セキュリティという二つの専門分野をともに理解している技術者に対する期待が大きく、それだけ価値が高いからだと考えられます。参考までに、令和 5 年度春期から令和 7 年度春期までの応募者数などの推移を、次に示します。

年 度	応募者数	受験者数	合格者数
令和 5 年度春期	15,239 (10.2%)	10,395 (68.2%)	1,482 (14.3%)
令和 6 年度春期	16,085 ( 5.6%)	11,089 (68.9%)	1,704 (15.4%)
令和 7 年度春期	17,297 ( 7.5%)	11,948 (69.1%)	2,126 (17.8%)

( )内は、順に対前期比増減率、受験率、合格率

午前 I（共通知識）試験は 30 問出題され、出題分野の内訳はテクノロジー分野が 17 問、マネジメント分野が 5 問、ストラテジ分野が 8 問で、これまでと同じです。問題の出題形式は、文章の正誤問題が 14 問（前回の令和 6 年度秋期は 18 問）、用語問題が 5 問（前回 5 問）、計算問題が 4 問（前回 4 問）、考察問題が 7 問（前回 3 問）で、考察問題が増え、文章問題が減っています。これらのことから、全体として少し難しいと感じた受験者が多かったと思われます。

なお、やや難しいと考えた問題は 6 問で、前回の 2 問から増えています。

午前 II（専門知識）試験の出題範囲やその出題数は、例年どおりです。令和 7 年度春期試験は、令和 6 年度春期試験に比較すると、ネットワーク分野とセキュリティ分野における新規問題の出題数が 6 問から 8 問に増加しました。難易度はほぼ例年どおりと考えられます。

午後 I 試験の出題テーマは、ルータの更改（問 1）、ネットワークの改善（問 2）、セキュア Web ゲートウェイの導入（問 3）でした。全体的に実務に即した内容で、ネットワーク技術の基礎知識に加え、実際の運用・設計・移行に関する知識が問われています。問 1 では OSPF、BGP、VRRP といった経路制御プロトコルの理解、問 2 では NAPT 処理能力や HTTP バージョンの違いによる通信特性、問 3 ではプロキシサーバとセキュア Web ゲートウェイの機能と設定に関する理解が求められました。特に近年のテレワーク環境におけるセキュリティ強化や、クラウドサービス利用時のネットワーク設計など、現代のネットワーク環境を反映した実践的な問題となっています。午後 I 問題の難易度を全体的に評価すると、標準レベルの問題といえます。

午後 II 試験の出題テーマは、社内ネットワークの IPv6 対応（問 1）と、IoT システムの設計（問 2）でした。問 1 は IPv6 に関連するアドレス、SLAAC、DNS、ルーティングを理解していることが必要です。経路情報を答える設問もありましたが、基本的な考え方は IPv4 と同じです。問 2 は、無線技術、IPsec、REST に関する用語の理解が必要です。CoAP が 10 年ぶりに問われましたが、問題文に詳細な説明があるため特段の対策をしていなくても答えやすかったと考えられます。いずれの問題も、基礎知識の応用と、読解力があれば回答は比較的容易でした。午後 II 試験の難易度を全体的に評価すると、やや容易レベルの問題といえます。

#### ■午前 II（専門知識）試験の講評

25 問のうち、分野別の出題数は、「技術要素」から 21 問、「コンピュータシステム」から 2 問、「開発技術」から 2 問という比率でした。この比率は例年どおりで、これからも大きな変動はないと考えられます。なお、25 問のうち、新規問題の出題数は令和 6 年度春期試験の 6 問から 8 問に増えました。難易度は前回とほぼ同程度であると思われます。

令和 5 年度春期から令和 7 年度春期までの分野別出題数の推移は、次のとおりです。

大分類	中分類	令和5年 春期	令和6年 春期	令和7年 春期
技術要素	ネットワーク	15	15	15
	セキュリティ	6	6	6
コンピュータ システム	コンピュータ構成要素	1	1	1
	システム構成要素	1	1	1
開発技術	システム開発技術	1	1	1
	ソフトウェア開発管理技術	1	1	1
合 計		25	25	25

### (1) 技術要素

技術要素からの出題範囲は、ネットワークとセキュリティの2分野です。分野別の出題数は、令和7年度春期試験もネットワークが15問、セキュリティが6問という比率でした。次年度以降も、この出題比率がベースになっていくことには変わりないでしょう。

ネットワーク分野の15問は、新規問題の出題数が令和5年度春期試験の4問から7問に大幅に増加しています。この7問は、問2 (IEEE 802.3のベシクフレームを用いた転送フレーム長)、問4 (10GBASE-Tにおけるカテゴリ6Aケーブルの最大長)、問6 (GET/POSTメソッドを用いたリクエストメッセージ)、問10 (経路情報の交換にUDPを用いるルーティングプロトコル)、問11 (サーバがSYNフラグの付いたパケットを受け付ける状態)、問12 (IPv6におけるICMPv6の近隣探索メッセージの使い方)、問13 (OpenFlowコントローラーに送信するときのメッセージ)です。一方、過去問題の8問は、令和5年度春期が3問、令和4年度春期が1問、令和3年度春期が1問、令和元年度秋期が1問、平成20年度秋期が1問のほか、平成30年度春期SC試験から1問でした。このようにNW試験の過去問題は、各年度にかなり分散していることが特徴ですが、基本的な知識を十分に身に付けておけば、正解できる問題が多いと思われます。

セキュリティ分野の6問については、新規問題が、問18 (DRDoS攻撃に該当するもの)の1問で、残りの5問は過去問題からの出題です。その内訳は、平成30年度秋期NW試験 (直近では令和4年度春期SC試験)、令和3年度秋期PM試験、平成24年度秋期NW試験 (直近では令和5年度春期SC試験)、平成29年度秋期NW試験 (直近では令和3年度秋期PM試験)、令和5年度春期NW試験から各1問出題され、いずれもレベル3の問題といえます。このため、セキュリティ技術の動向をはじめ、SC試験を含めた過去問

題を十分に学習していれば、問題なく正解できると考えられます。

### (2) コンピュータシステム

コンピュータ構成要素からは問22 (キャッシュメモリの書込み動作)、問23 (MTTRの短縮化に役立つ機能)という問題でした。いずれもAP試験の過去問からの出題で、基本的な知識があれば解ける問題でした。

### (3) 開発技術

システム開発技術からは問24 (アーキテクチャパターンのブローカー)は平成27年度春期DB試験から、問25 (ステージング環境の説明)は令和4年度春期NW試験 (直近では令和5年度秋期DB試験)からの過去問題でした。用語の説明を問う知識問題ですが、よく使われる用語ですので難易度は低かったと思われます。

### ■午後I試験の講評

午後I問題は、BGP、OSPF、IPsec、VRRP、DHCP、NAPT、HTTP、PACファイル、ファイアウォールなど、過去にも多く出題された基本的な技術が主に取り扱われました。HTTP/3のような比較的新しい技術の設問もありましたが、UDPの知識があれば十分対応できる内容でした。このため、問題文に記述された内容を十分に把握しながら、それぞれの設問に対し丁寧に取り組んでいけば、合格基準点をクリアすることは、それほど難しいことではないと思われます。

NW試験の午後I問題は、例年、設問数が多く設定されているので、正解できる設問には確実に得点し、合格基準点をクリアする点数を積み重ねていくことが必要です。また、それぞれの問題に取り組む際には、ネットワーク及びセキュリティに関する幅広い技術知識を有していることが要求され、日ごろからしっかりと学習しておくことが必要です。

今回の試験では、ルータ更改における業務影響を最小化するための手順、NAPTテーブルの最適化、クラウド型セキュリティサービスの導入など、実務に即した内容が多く含まれており、実践的な知識が問われました。問題で記述された内容や条件を十分に考慮しながら解答を作成していくことが、合格基準点をクリアするための必要条件となります。

### 問1 ルータの更改

問1は、建設機械販売会社のルータ更改に関する問題です。OSPFによる

経路制御, IPsec VPN による拠点間接続, eBGP によるクラウドサービス接続, VRRP による冗長化など, 一般的に利用される技術要素が多く含まれています。特に OSPF のネイバー認証や eBGP の AS\_PATH プリペンド設定, VRRP のプリエンプト機能など, 経路制御プロトコルの詳細な設定と動作原理の理解が問われています。また, ルータ更改の手順では, 業務影響を最小限に抑えるための通信迂回設定や, 物理的な機器交換の手順, 動作確認方法など, 実務的なネットワーク運用管理の知識が必要です。ping コマンドによる動作確認や, OSPF コストの変更による通信経路制御など, ネットワークエンジニアとして必要なスキルも問われており, 実務経験のある受験者にとっては比較的取り組みやすかった問題といえます。

## 問2 ネットワークの改善

中学校のネットワーク改善に関する問題です。インターネット接続帯域の不足と NAPT 処理能力の不足という二つの課題に対する調査と対策が中心テーマです。特に注目すべき点は, HTTP バージョン (HTTP/1.1, HTTP/2, HTTP/3) の違いによる NAPT 変換エントリー消費の違いに関する考察です。HTTP/1.1 では複数の TCP コネクションが必要なのに対し, HTTP/2 ではストリーム多重化によって TCP コネクション数を削減できる点, さらに HTTP/3 では UDP ベースの QUIC プロトコルを使用して TCP レイヤーの HoL ブロッキング問題を回避している点など, 最新の Web プロトコルに関する知識が問われています。また, NAPT 変換テーブルの保持時間の調整によるリソース最適化など, 実務的なネットワーク設定の知識も必要とされています。この問題は, ネットワークプロトコルの基礎知識に加え, アプリケーションレイヤーとトランスポートレイヤーの相互作用についての理解が求められる, やや難易度の高い問題といえます。

## 問3 セキュア Web ゲートウェイの導入

部品メーカーにおける SWG の導入に関する問題です。テレワーク勤務でのセキュリティ強化という昨今のテーマを扱っており, クラウド型セキュリティサービスの導入検討から実装までの流れを理解することが求められます。プロキシサーバからセキュア Web ゲートウェイサービスへの移行において, ネットワーク構成の変更点, FW の許可ルールの見直し, クラウドサービスへのアクセス経路の変更など, 実務的な移行計画の立案能力が問われています。特に HTTPS 通信のコンテンツ調査機能や, マルウェア駆除のための隔離環境など, セキュリティ技術に関する理解も必要です。また, 直接接続リストの

設定やリバースプロキシサーバへの変更など, ネットワークトラフィックの最適化に関する考察も含まれています。クラウドサービスの活用が進むネットワーク環境において, セキュリティとユーザビリティのバランスを考慮した設計能力が試される, 実践的な問題といえます。

## ■午後Ⅱ試験の講評

問1 で社内ネットワークの IPv6 対応, 問2 で IoT システムに関する問題が出題されました。問1 は IPv6 の基本的な仕組みから実装までを網羅した実践的な問題で, NDP や SLAAC, IPv6 アドレス体系, 名前解決, 経路制御など幅広い知識が問われました。特に IPv6 と IPv4 のデュアルスタック環境における設計・運用上の考慮点が重視されています。全体的な難易度は標準的ですが, IPv6 特有の技術要素を理解していることが求められる内容でした。IPv6 の普及が進む現状を反映したタイムリーな出題といえます。問2 は, IoT システム開発に関する内容で, LPWA (Low Power Wide Area) 通信技術, CoAP (Constrained Application Protocol), DTLS (Datagram TLS) などの知識が問われています。IoT 向け通信プロトコルやセキュリティ技術に関する幅広い理解が求められる内容です。

NW 試験の午後Ⅱ問題は, 問題分量が 10 ページ以上にわたるため, まず, 問題の全体像を的確に把握していくことが必要になります。そして, 合格基準点をクリアするには, 設問で問われていることをよく確認した上で, 問題の条件を加味しながら丁寧に解答を作成していくことが要求されます。ネットワークセキュリティを含むネットワーク技術全体に関する技術知識をしっかり押さえた上で, 問題の記述内容を十分に把握しながら設問に取り組んでいけば, 合格基準点をクリアすることはそれほど難しくないと考えられます。

## 問1 社内ネットワークの IPv6 対応

問1 は, 全国に拠点をもつ企業の IPv4 ネットワークを IPv6 対応させる計画に関する問題です。NDP の仕組み, LLA や GUA といった IPv6 アドレスの種類と割当て方法, IPv6 の名前解決 (AAAA/A レコード, EDNS), OSPFv3 による経路制御など, IPv6 の基本技術から実装までを幅広く理解していることが必要でした。特に, IPv6 と IPv4 のデュアルスタック環境における設計上の注意点や, ICMPv6 メッセージの重要性など, 実務的な知識も問われています。一部の設問は IPv6 に特化していますが, 多くの設問は問題文のヒントや IPv4 と同様の考え方で答えることができました。比較的答えやすい設問が多かったことから, 難易度はやや易しかったと想定されます。

## 問2 IoTシステムの設計

問2は、LPガスメーターを用いた遠隔検針サービスのIoTシステム開発に関する問題です。LTE-MなどのLPWA技術の特徴、CoAPプロトコルの詳細な動作、DTLSによるセキュリティ確保の仕組みなど、IoT向け通信技術の幅広い知識が問われています。特に、CoAPのメッセージ形式や通信シーケンス、再送処理などについて詳細な動作が示されました。また、IoTデバイス特有の省電力設計や時刻同期の問題など、実際のIoTシステム開発で直面する課題について、ネットワーク観点での考察も求められています。全体として、IoT技術の基礎知識と実践的な応用力を総合的に評価する良問と言えるでしょう。問題文にヒントが多く比較的答えやすい設問が多かったことから、難易度はやや易しかったと想定されます。

### ■ 次回の試験に向けて

午前試験は、午前I（共通知識）、午前II（専門知識）の二つの試験が実施されます。午前I試験の出題数は30問、試験時間は50分です。この試験は、各高度試験に共通した問題ですから、出題分野もテクノロジー系（基礎理論、コンピュータシステム、技術要素、開発技術）、マネジメント系（プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント）、ストラテジ系（システム戦略、経営戦略、企業と法務）の全分野にわたります。技術レベルは4段階の中のレベル3（基本情報技術者はレベル2、応用情報技術者はレベル3）ですから、幅広い分野に関する知識が要求されます。しかも、合格基準点は満点の60%（18問の正解）ですから、日ごろから情報処理技術全般に関する知識を十分に習得するとともに、関連する過去問題を多く解いておくといよいでしょう。

午前II試験の出題数は25問、試験時間は40分です。合格基準点は午前Iと同様に満点の60%（15問の正解）です。出題の重点分野は、技術要素の中のネットワークとセキュリティです。このほか、コンピュータシステムの中のコンピュータ構成要素、システム構成要素、開発技術の中のシステム開発技術、ソフトウェア開発管理技術の分野からも出題されます。令和7年度春期試験の出題数は、例年どおり、技術要素（ネットワークとセキュリティ）が21問、コンピュータシステムが2問、開発技術が2問ですから、NW試験においては、技術要素分野の大半の問題に正解できれば、合格基準点をクリアできます。このため、午前II試験は、午前I試験のような特段の対策は必要ないと考えられます。

ネットワークとセキュリティは重点分野になっているだけでなく、最も高度であるレベル4からも出題されます。しかし、レベル4に相当する問題

は、あまり多くないので、基本的な問題には確実に正解できるようにしておくことが重要です。そして、午前II試験は、過去問題からの出題が半数以上を占めますので、過去問題を中心とした学習を十分に実施しておけばよいでしょう。なお、午前II試験単独の対策は、あまり効果がありません。あくまでも、午後試験に役立つように、ネットワークとセキュリティ技術の基本知識について、十分に習得しておくことが必要です。例えば、IPルーティングの仕組みをはじめ、DNS、電子メールの転送、各種ネットワーク機器を用いたネットワーク構成技術などに関しては幅広く、しかもその詳細技術に至るまで、十分に把握しておくようにしましょう。基礎知識をしっかりと固めながら、午後試験を見据えた技術知識の習得に努めることが重要です。

次に、午後試験についてです。午後I試験は1時間30分の試験時間で、3問の中から2問を選択して解答します。配点は1問当たり50点です。2問選択しますので、満点は100点になります。そして、合格基準点は60点です。また、午後II試験は、2時間の試験時間で2問の中から1問を選択します。1問100点満点で、合格基準点は60点です。

NW試験の午後問題は、IoTネットワークやSDN、クラウドサービスへの移行、仮想化技術、無線LANなどの最新の技術動向のほか、OSPFやBGPなどのルーティングプロトコル、及びHTTPやDNSなどアプリケーション層プロトコルの詳細にわたるものなどがよく出題されます。新技術を対象にした問題の出題は、これからも続くことは変わらないと思いますが、あくまでもNW試験の出題対象は、セキュリティを含むネットワーク技術です。このため、ネットワーク分野とセキュリティ分野に関する技術を地道に習得することを心掛けるとよいでしょう。

SDN、IoT、クラウドサービスなどの新技術を理解していくためにも、ネットワーク全般に関する基礎技術が十分に把握できていなければ、その内容を理解することはなかなかできません。このため、次のような分野については、十分に学習し、しっかりと基礎固めをしておくといよいでしょう。

#### ① 有線LANと無線LAN

CSMA/CD、MACフレーム、CSMA/CA、CCMP、WPA2、WPA3、事前認証、PMKの共有、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11ax、PoEなど

#### ② IPとTCP/UDP

IPアドレス、CIDR、ルーティングテーブル、アドレス変換、ICMP（ping試験の方法など）、IPマルチキャスト、IGMPv3、PIM、DHCP、VRRP、TCP、UDPなど

### ③ アプリケーションプロトコル

HTTP, クッキー, プロキシサーバ, 負荷分散方法, DNS の仕組み (キャッシュ, DNS サーバの信頼性対策, DNS キャッシュポイズニング, DNS リフレクタ攻撃, DNSSEC など), 電子メール配送の仕組み, 電子メールのセキュリティ (SMTP-AUTH, S/MIME, PGP, オープンリレーの問題など), 迷惑メール対策 (OP25B, IP25B, 送信ドメイン認証 (SPF, DKIM, DMARC) など), VoIP (SIP, RTP, 優先制御, 帯域制御, エコーキャンセラなど), SNMP, NTP など

### ④ ネットワーク機器

LAN スイッチ (スイッチングハブ) の機能・動作, 仮想スイッチ, 仮想 NIC, 物理 NIC, NIC チーミング, スパニングツリー, リンクアグリゲーション, VLAN, VXLAN, ルータの機能・動作, ルーティングプロトコルの OSPF や BGP-4 に関する詳細技術, ネットワーク仮想化, SDN (オーバーレイ方式, ホップバイホップ方式, OpenFlow など), 広域イーサネット, IP-VPN, WAN 高速化装置など

### ⑤ ネットワークセキュリティ

IPsec, IKEv2, TLS 1.3, QUIC, VPN, IEEE 802.1X/EAP, RADIUS, 暗号化技術, 認証技術 (デジタル署名, ワンタイムパスワード, パスワードレス認証, タイムスタンプ, メッセージ認証など), 電子証明書の検証方法, ファイアウォールの設定, IDS, IPS, WAF など

### ⑥ ネットワークの設計・運用

ネットワークにおけるボトルネックやバックアップの考え方, ネットワーク構成法, 必要帯域 (回線速度) の検討, トラフィック計算, データ転送量, 移行方式の検討, 故障切分け, 保守運用のノウハウ, 各種コマンドの使い方など

さらに, 午後試験は, 出題内容を一つの技術に絞ったものよりも, 複合的な観点から出題されます。このため, 無線 LAN 技術, IP と TCP/UDP に関する詳細技術, ネットワーク機器とサーバやネットワークの仮想化技術との関連, セキュリティ技術などを中心として, ネットワークシステムの設計・構築, 移行や運用管理技術など, 相互に関連した総合問題に対応できる技術力を養っていくことが必要です。しかし, 試験対策という意味では, 問題文に記述された範囲内で考えることが原則ですから, まず問題で記述された内容を正しく理解できるだけの基本的な読解力と技術力を身に付けることが重要です。これが基本技術をマスターすることの必要性にもなります。こうし

た基本技術をベースにして設問で何が問われているかを明確に把握し, 解答作成に当たっての条件などを的確に抽出した上で, そこから論理的に考えていく能力を磨いていくとよいでしょう。

午後Ⅱ試験は数十字程度の記述式で解答する設問が多くなります。記述内容については, 考え方や根拠を明確に示すほか, キーワードをしっかりと押さえた解答を作成することが大きなポイントです。さらに, ネットワークに関する応用能力を養っていくという意味では, 過去問題を数多く解いてネットワークに対する勘所をつかむことも必要です。あくまでも基本技術をしっかりと確立しないことには, 自分の力としてなかなか発揮できず, 午後問題の解答が作成できないという事態に陥ってしまいます。したがって, 前述の①から⑥までの基本技術を十分にマスターすることから始めるとよいでしょう。しかし, この基本技術の習得については, かなりの時間が必要になりますから, あらかじめ多くの学習時間を見込んでおくことが必要です。また, 一度理解しても, 繰り返し技術知識をインプットしていかなければ, すぐに忘れてしまいます。工夫をしながら継続的に学習していく姿勢を確立してください。

このように, NW 試験で合格するためには, 一つ一つの技術に対する理解を積み重ねていくことが必要ですから, 相当の努力が要求されます。したがって, この試験に合格することは, それだけ価値が高いということになります。学習計画をしっかりと立てて, 必ず合格するように努力していきましょう。

以上